平成 28 年 4 月 5 日　第 2438 号

営農NEWS

促成キュウリやトマトの灰色かび病防除を徹底しましょう

越冬キュウリやトマト栽培では、この冬の暖冬と不安定な天候で、施設内の環境制御や肥培管理に苦労されていますが、この影響で現在、灰色かび病の発生が多い状況にあります。

「病害虫発生予報 4 月号（病害虫防除所）」によりますと、3 月下旬現在、**促成キュウリにおける灰色かび病の発病株率は平年より高く（本年値 6.0%、平年値 0.8%）、促成トマトの発病株率（本年値 13.2%、平年値 6.3%）、発病果率（本年値 0.37%、平年値 0.20%）ともに平年よりやや高い状況で、今後ともやや高い～高い発生量になると予想しています。**

灰色かび病はやや低温を好み、多湿の環境が続けば多発生し、一度多発生してしまうとなかなか薬剤による防除効果が上がりにくい病害です。今季のトマトでは、昨年末から発生の多い状況が継続し、キュウリでは、3 月に入って急増しています。

このため、今後とも発病抑制の栽培環境を保持し、灰色かび病の予防に努めるとともに、施設内をよく観察し、発病の早期発見に努めて防除を徹底してください。なお、**有効な薬剤に対して耐性菌が出現しやすい病害**で、**常に防除効果を確認しながら系統の異なる薬剤で防除を行う**必要があります。

【防除対策のポイント】

1）被害果を見つけたら直ちに摘除し、施設外へ持ち出して腐熟化させるなど適切に処分してください。施設内や近くに、そのまま放置することは（伝染源となって、胞子が飛散する恐れがありますので）厳禁です。
2）施設内の多湿条件が続くと、急速に多発生します。昼近くになっても作物に水滴が残るような場合には、暖房や送風、換気等により、施設内の湿度をできるだけ低く保ってください。
3）開花が終わっても花落ちが悪い場合には、出来るだけ枯花を取り除きましょう。
4）薬剤散布は晴れた日の午前中に行い、夕方までには作物表面の薬液が乾くようにしましょう。
5）湿度の高い施設では、防除薬剤に「くん煙剤」などを活用しましょう。
6）薬剤耐性菌の発生を抑制するため、同一系統の連続散布は避けてローテーション散布してください。

表１　キュウリ灰色かび病の主な防除薬剤（平成 28 年 4 月 5 日現在）

薬　剤　名	希釈倍率	使用時期　／使用回数
スミレックス水和剤	1,000～2,000 倍	収穫前日まで／ 6 回以内
ゲッター水和剤	1,500 倍	収穫前日まで／ 5 回以内
フルピカフロアブル	2,000～3,000 倍	収穫前日まで／ 4 回以内
ファンタジスタ顆粒水和剤	2,000～3,000 倍	収穫前日まで／ 3 回以内
アフェットフロアブル	2,000 倍	収穫前日まで／ 3 回以内
セイビアーフロアブル２０	1,000～1,500 倍	収穫前日まで／ 3 回以内
ジャストミート顆粒水和剤	2,000～3,000 倍	収穫前日まで／ 3 回以内
ダコニール１０００	1,000 倍	収穫前日まで／ 8 回以内
ベルクートフロアブル	2,000 倍	収穫前日まで／ 5 回以内

表２　トマトまたはミニトマト灰色かび病の主な防除薬剤（平成 28 年 4 月 5 日現在）

対象作物 / 薬剤名	トマト		ミニトマト	
	希釈倍率	使用時期　／使用回数	希釈倍率	使用時期　／使用回数
ゲッター水和剤	1,000～1,500 倍	収穫前日まで／ 5 回以内	1,500 倍	収穫前日まで／ 3 回以内
ファンタジスタ顆粒水和剤	2,000～3,000 倍	収穫前日まで／ 3 回以内	2,000～3,000 倍	収穫前日まで／ 3 回以内
フルピカフロアブル	2,000～3,000 倍	収穫前日まで／ 4 回以内	2,000～3,000 倍	収穫前日まで／ 4 回以内
ロブラール水和剤	1,000～1,500 倍	収穫前日まで／ 3 回以内	1,000～1,500 倍	収穫前日まで／ 3 回以内
アフェットフロアブル	2,000 倍	収穫前日まで／ 3 回以内	2,000 倍	収穫前日まで／ 3 回以内
セイビアーフロアブル 20	1,000～1,500 倍	収穫前日まで／ 3 回以内	1,000～1,500 倍	収穫前日まで／ 3 回以内
ベルクートフロアブル	2,000～4,000 倍	収穫前日まで／ 3 回以内	4,000 倍	収穫前日まで／ 2 回以内

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

全農　JA全農いばらき
生産資材部　営農企画課
電話：029-291-1012　FAX：029-291-1040